

【学生フォーラム】

岡崎市における環境保全活動に関する課題と今後について

人間環境大学 人間環境学部 環境科学科 上野慶子

要 旨

環境保全活動の課題や環境保全活動に対する意識を明らかにし、今後、行うべき方策について検討していくことで、岡崎市の環境保全活動の実態を明らかにすることを目的とした。活動団体、活動参加者、大学生にアンケート調査を行ったところ、活動団体は人手不足や高齢化が課題であると感じていること、活動参加者と大学生の間に活動に対する意識の違いがあることが明らかになった。また、参加意欲がある大学生の間にも経験の有無により意識の違いがあり、参加を促進するためには経験の有無に合わせた方策を行っていく必要があると考えられた。

1. はじめに

岡崎市では2017年に139種の環境省レッドリスト掲載種が確認されているほか、美合地区・河合地区が「岡崎ゲンジボタル発生地」として国の天然記念物に指定されている¹⁾。このような自然環境を今後も維持していくためには環境保全活動が重要となるが、先行研究により環境保全活動団体の人手不足や高齢化が課題であることや^{2,3)}、市民と活動団体の間に意識差があることが明らかにされている⁴⁾。また、課題解決に繋がる研究では市民と一括りにするのではなく、性別や参加経験及び参加意欲といった属性別に参加促進方策を検討していくことが重要であると明らかにされている⁵⁾。さらに、大学生による参加に注目し、若者が望んでいる課題解決の手順を明らかにしている研究もある⁶⁾。しかし、岡崎市で行われている環境保全活動の課題や今後、行うべき方策は明らかにされていない。そこで本研究では岡崎市の環境保全活動の実態を明らかにすることを目的とした。本研究から環境保全活動の課題や活動に対する意識を明らかにし、今後、特に大学生の参加を促進するために行うべき方策について検討していく。

2. 方法

調査は表1のような方法で行った。なお活動団体の「対象」欄の3条件とは、①活動カテゴリが「環境保全」、主な活動分野が「環境の保全を図る活動」である、②活動目的、活動内容・事業内容のいずれかに「環境」、「川」、「山」、「里山」、「温暖化」、「自然」、「森林」の7つのキーワードのいずれかが含まれている、③平成30年度分の活動報告書が確認出来るという3つである。

表1. 調査方法

	活動団体	活動参加者	大学生
対象	2019年12月20日時点でおかざき市民活動情報ひろばにて調査者が決めた3条件を満たす活動団体	活動団体への調査で活動参加者に対する調査への協力を承諾した活動団体の活動へ参加をしている方	岡崎市内の4年制大学4校のうち2校に通う学生
期間	2019年12月下旬～2020年1月下旬	2020年1月中旬～2月中旬	2020年1月
配布枚数 有効回答	28団体中18団体に配布、17枚回収、有効回答16枚	232名中108名に配布、66枚回収、有効回答56枚	1,774名中308名に配布、297枚回収、有効回答261枚
内容	①基本情報(活動場所、活動内容、力を入れている活動、会員数、平均活動参加人数、平均年齢) ②活動の満足度 ③長所・課題 ④大学生の新規参加必要性とその理由 ⑤今後の自然環境と活動団体への展望	①基本情報(性別、年齢) ②活動参加動機 ③環境保全活動に対する意識 ④今後の自然環境や活動団体への展望	①基本情報(性別、学年、学部、学科) ②環境保全活動への参加経験の有無 ③環境保全活動に対する意識 ④今後の環境保全活動への参加意欲 ⑤今後の自然環境への展望

また、活動参加者と大学生の「内容」欄の「③環境保全活動に対する意識」については、高瀬ほか(2014a)で用いられた参加要因の4項目(運動機会、交流場所、自然学習、癒し効果)および参加課題の11項目(情報入手、自然体験、知識不足、活動時間、人間関係、体力不足、活動意義、活動興味、活動環境、活動場所、活動費用)を回答者へランダムに提示した。

3. 結果

(1) 活動団体の現状

活動参加者の平均年齢を60代または70代以上と回答した活動団体は68.8%、活動参加者向けアンケートの回答者で60代または70代以上と回答した人は76.8%となった。活動団体が考える課題は「会員の高齢化が進んでいる」が50.0%、「新しい会員が増えにくい」が37.5%となった。今後の展望としては「より多くの人へ活動や考えを広げていきたい」が43.8%、「活動を充実・発展させたい」、「新しい会員を増やしたい」がそれぞれ37.5%となった。

(2) 環境保全活動に対する意識

活動参加者と大学生全体の意識を比較すると、参加要因は活動参加者が、参加課題は大学生全体が意識をしていた(図1)。また、大学生の中でも最も参加を見込むことが出来ると考えられる参加経験は無いが参加意欲がある大学生の意識に注目するため、参加意欲がある大学生を参加経験の有無で分け意識を比較した。その結果、参加要因には特に違いがみられなかったが、参加課題では特に知識不足、体力不足、活動環境、活動場所において参加経験がある大学生より参加経験が無い大学生が課題であると意識をしていた(図2)。



図1. 活動参加者と大学生全体の意識比較

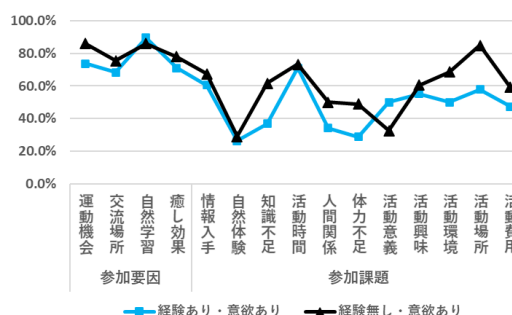


図2. 参加意欲がある大学生の意識比較

4. 考察

(1) 活動団体の現状

活動団体は今後の展望として活動や考えを広げ、充実させていきたい、会員を増やしたいと考えてはいるが、栗田・植竹(1999)や中島・古谷(2004)と同様に新規会員が増えないことや高齢化という課題を抱えていることが明らかになった。これらのことから、活動団体の展望通りに活動を行っていくことは難しいと考えられる。

(2) 環境保全活動に対する意識

活動参加者と大学生全体を比較すると(図1)、参加要因では全項目において活動参加者、参加課題では全項目において大学生全体が意識をしていた。これらのことから大学生全体の傾向として参加をするきっかけに繋がる参加要因ではなく、参加するにあたっての障壁や不安に繋がる参加課題を活動参加者よりも意識している。そのため、大学生が自分から環境保全活動に参加をしようとする可能性は現時点では低いと考えられる。

参加意欲がある大学生を参加経験の有無で分け意識を比較すると(図2)、参加要因では特

に違いがみられないが、参加課題の中でも特に知識不足、体力不足、活動環境、活動場所の4項目で違いがみられた。これらのことから、参加意欲がある大学生でも意識は異なるため、「参加意欲がある大学生」と一括りにして方策を検討していくことはあまり適していないと考えられる。

(3) 大学生の参加促進に向けた今後の方策

参加意欲がある大学生を参加経験の有無で分け意識を比較し、特に違いがみられた4項目に対する方策を検討する。知識不足に対しては、自然環境や動植物などに関する知識を持っていなくても参加しても良いこと、周りの人へ質問しやすい雰囲気であることを伝えることが考えられる。体力不足に対しては、どのような活動を行うのか、活動の合間に休憩があるのかなどを明らかにすることが考えられる。活動環境については、服装や持ち物、活動内容、考えられる危険などについて伝えることや、活動団体側が危険な場所や起こりうる危険を把握しておくことが必要であると考えられる。活動場所については活動団体が活動している場所をまとめた地図を作成することで、普段利用する場所から行くことが出来る場所なのかを伝えることや活動場所に対しての不安を少なくすることに繋がると考えられる。

5. まとめ

活動団体は活動を広げ、充実させていきたい、会員を増やしたいと考えているが、先行研究と同様に岡崎市でも人手不足や高齢化などの課題があり、展望通りに活動を進めていくのは難しいことが明らかになった。また、環境保全活動に対する意識については、活動参加者と大学生全体および参加意欲がある大学生でも参加経験の有無によって意識の違いがあることが明らかになった。今後、参加意欲がある大学生に対する方策を検討する際は参加意欲がある大学生と一括りにせず、参加経験の有無で行う方策を変え、様々な方策を行うことが必要である。

引用文献

- 1) 岡崎市『岡崎市環境教育推進計画』、2019、全80頁
- 2) 栗田和弥・植竹薫「関東地方における市民による環境NPOの自然環境保全活動に関する研究」『ランドスケープ研究 62(4)』日本造園学会、1999、400-404頁
- 3) 中島敏博・古谷勝則「千葉県北総地域の残存緑地に対して里山活動参加者が期待する里山イメージに関する研究」『ランドスケープ研究 67(5)』日本造園学会、2004、653-658頁
- 4) 高瀬唯・古谷勝則・桜庭晶子「市民と緑地保全活動団体の意識差からみる保全活動の参加促進課題」『ランドスケープ研究 77(5)』日本造園学会、2014a、553-558頁
- 5) 高瀬唯・古谷勝則・桜庭晶子「市民の意識から見た緑地保全活動の参加促進プロセス - 参加課題に関する解決の優先順位 - 」『日本建築学会計画系論文集 79(704)』日本建築学会、2014b、2241-2249頁
- 6) 高瀬唯・古谷勝則「大学生の意識から見た緑地保全活動の参加促進課題と課題解決の優先順位」『ランドスケープ研究 76(5)』日本造園学会、2013、717-722頁

謝辞

本研究の実施にあたり、ご指導いただきました江口則和講師、香川大学創造工学部の小宅由似助教に心より感謝申し上げます。また、アンケート調査にご協力いただきました岡崎市内の環境保全活動団体の運営者並びに活動参加者の皆様、また、人間環境大学、愛知産業大学の先生方、学生の皆様へ厚く御礼申し上げます。